

## ぼくのこせい

小 四

ぼくには、きつ音があります。きつ音にもいろいろな種類があるので、ぼくは、言葉の最初がうまく話せません。つまってしまいます。小さいころは、言葉の教室に週に一回通っていました。別に、勉強をするわけではなく、先生とブロックや体を動かして遊んでいました。そのころは、周りの友だちもまだうまく話せず、ぼくのきつ音も目立ちませんでした。でも、中学年になり、友だちと少しずつ話し方がちがうのに気がつき始めてしまいました。ど

うして、みんなはすらすらと話せるのだろうと思ひ、みんなと同じようになりたくて、チャレンジしてみました。が、きんちようしてしまい、つまってしまいました。クラスがえで、初めて同じクラスになった友だちに、「なんで、あ、あ、あ、つて言うの？」「おもしろい話し方だね。」と言われてしまいました。答えたくなかったので、無視をする。何回も聞かれました。ぼくは、とてもいやな気持ちになり、落ちこみました。しかし、ぼくの気持ちをうらぎるよきに、そうしたとき、きつ音はますます出てしまいます。もう、なんでほつといてくれない

のだろうと、やりきれない思いで  
いっぱいになりました。

でも、とてもうれしいこともあり  
ます。ぼくの周りには、きつ音を理  
かいしてくれ、やさしくしてくれる  
たくさんの友だちがいます。その友  
だちは、ぼくと会話をする時、きつ  
音が出ても、ぼくの話が終わるのを  
待って聞いてくれます。決して、ぼ  
くはいやな気持ちになることはあり  
ません。最高の友だちです。

最近、新しい学年になった時、  
しつ問していた友だちも、少しづつ  
きつ音を気にせず、聞き流してく  
れるようになりました。

また、ぼくの事を一番理かいして  
くれているのはお母さんです。お母

さんは、

「きつ音は病気みたいなものだよ。

治らないかもしれないけど、治る  
かもしれない。だから、きつ音は  
あなたのこせい。」

と言ってくれます。ぼくは、ぼくの  
ままでもいいのだと、きつ音を受け止  
めることができます。

ぼくは、どうどうとしたいです。  
これからも、きつ音とも友だちとも  
仲よく生活していききたいです。

